



## 2012年度春学期修士論文テーマ一覧

著者	同志社大学政策学会
雑誌名	同志社政策科学研究
巻	14
号	2
ページ	227
発行年	2013-03-15
権利	同志社大学政策学会
URL	<a href="http://doi.org/10.14988/pa.2017.0000013100">http://doi.org/10.14988/pa.2017.0000013100</a>

## 2012年度春学期修士論文テーマ一覧

2012年度春学期において、修士論文を提出し、修了が認定された修了生について、氏名と研究テーマを以下に示します。

**氏名：**塩見 和代

**題目：**第二言語としての日本語教育の再構築  
—小学校におけるキャリア教育の視点から—

**梗概：**本研究ではJSL児童の就学及び進学にプラスの影響を及ぼし、彼・彼女らをエンパワーする教育としてのキャリア教育の視点から小学校における第二言語としての日本語教育の可能性について考察することを目的としている。

JSL児童の不就学及びドロップアウト、不登校を引き起こす問題を可視化させた後、キャリア教育に注目し当該教育を通して行われるモデルの存在の提供と日本語教育の可能性についてアンケート調査を実施し考察を進め、最終的には提言を行った。

今後は、本研究を元にJSL児童にとってのキャリア教育の必要性を再確認し、小学校におけるJSL児童に対するキャリア教育システムの構築についてさらに研究を進めたい。

**氏名：**瀧尻 将都

**題目：**研究開発税制の研究開発投資に及ぼす影響

**梗概：**本稿は研究開発税制と企業の研究開発投資行動の関係を明らかにするという視点から研究開発集中度に与える影響と研究開発投資の変動に与える影響を計測し、税制改正の前後(15年、18年、20年)を相対比較し、実証分析を行った。

分析結果は控除額の研究開発集中度に及ぼす影響について、改正前より改正後が大きくなり、税制改正が政策目的に照らし有効に機能している結果を得た。

しかし15年度改正の効果に限ると、改正前

の影響よりも小さくなっており、税制改正が政策目的に照らし有効に機能していない結果も明らかとなった。

また、20年改正により、税額控除の上限打ち切りが緩和されたが、これに関しては、逆に影響が小さくなる結果も明らかとなった。